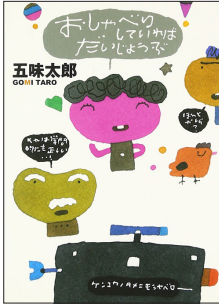


そのモヤモヤを晴らすヒントになる本 尹雄大さんに選書していただきました その1



五味太郎 | おしゃべりしてあげよう クレヨンハウス

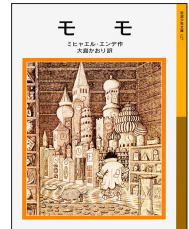
言わずと知れた絵本作家、五味さんのエッセイ。以前、五味さんにインタビューしたことがあって、その際、「考えてから行動するよりも動きながらするのが無理がない」と話された。

その発想は「おしゃべりしてあげよう」と同じだ。ひとりで悩んで考えて固まってもおもしろくない。思っていることを口にする=おしゃべりするというごく自然な動きがあって、考えも定まっていくんだと思う。

ミヒャエル・エンデ | モモ 岩波少年文庫

児童書ではあるけれど、すべての大人が読むべき本だ。

モモという少女の冒険物語において、最初は人が言葉を口にするとはどういうことか?の謎が示され、次に働くとは?お金とは何か?の問いに迫っていく。実はそれらすべてコミュニケーションだということが明らかになっていく。



© 水木プロ

ほんまにオレはアホやろか | 水木しげる 講談社文庫

過酷なニューギニア戦線で片腕を失うという凄惨な体験をしながらも、戦後になって、このようなタイトルのエッセイを書く肝の太さに驚く。

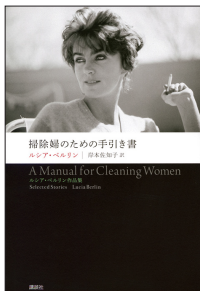
人間は何をしてもいいし、何もしなくてもいい。この地上をいかに過ごすかしか本当は問われていないんじゃないか。長すぎた思春期を患う人は、坂口安吾のエッセイや色川武大の『うらおもて人生録』をポケットにしのばせ、何度も読み返さなくては精神の均衡がはかれなときがある。やがて、そうした深刻さに疎ましさを感じ始めると出会うのが水木しげるの『ほんまにオレはアホやろか』ではないか。

イリナ・グリゴレ | 優しい地獄 亜紀書房

私たちが思い悩んだり、考えたりするとき、おもに日本語を使っている。その日本語の体系が毎日繰り返される日常の光景を支えている。けれどもイリナさんの日本語は、眼に映る、見慣れたはずの日本語の文字の配列とは異なる息遣いを感じさせる。



そのモヤモヤを晴らすヒントになる本 尹雄大さんに選書していただきました その2



ルシア・ベルリン | 掃除婦のための手引き書 講談社

結婚と離婚を繰り返す、仕事を転々とし、加えてアルコール依存症だった作家自らの体験をもとに書かれている。物語の中には、地を這うような生活をしている人が多く登場する。そうした人に対する彼女の視線は同情的でなく、突き放しめせず、視野に入れていくくらいの態度でいる。ちゃんと見つめているのが伝わってくる。

今もっとも足りないのは、どんな人もここにいて生きていくという事実をしっかりと見ることとすれば、彼女の小説世界を味わうことで、私たちの生きていく上での尊厳とは何か?が体得できるかもしれない。

番外編：映画 濱口竜介 | 偶然と想像

私たちが何気なく「日常」と呼んでいるものは本当のところ何なのか。当たり前前に口にしている言葉の、その当たり前さは何が保証しているのか。3つの短編から構成された本作は、そんな当然がふと離陸してしまう瞬間を描いている。

ところで濱口さんは以前の作品「寝ても覚めても」で、主人公にこう言わせている。「悪いことをしたと思う。でも謝らない」。本作でも似たことを言わせている。濱口作品における「悪意」とは何かをあわせて考える上でも興味深い作品だ。



© 2021 NEOPA / Fictive

Profile

選書：尹雄大（ユン・ウンデ）

神戸市生まれ。関西学院大学文学部哲学科卒業。テレビ番組制作会社勤務を経て週刊誌記者を手始めに出版業界に関わる。現在はライターとインタビュアーとして活動。主な著書に『聞くこと、話すこと。～人が本当のことを口にするとき』(大和書房)、『つながり過ぎないでいい』(亜紀書房)、『さよなら、男社会』(亜紀書房)、『異聞風土記』(晶文社)、『体の知性を取り戻す』(講談社現代新書)、共著『施設でくらす子どもたち』(明石書店)など。近年はコミュニケーションならびに文章に関する講座のほか、精神保健福祉士の研修や男女共同参画センター、公私立の中等、高等学校でコミュニケーションに関するワークショップや講演を行っている。公式サイト | <http://nonsavoir.com/>

講師：古橋敬一（ふるはし・けいいち）

愛知県生まれ。愛知学泉短期大学専任講師。博士（経営学）。クリエイティブ・リンク・ナゴヤ理事。アラスカ留学にて先住民族の文化再生運動に多大な影響を受ける。帰国後、大学院にて商店街の活性化まちづくり、愛知万博における NGO/NPO 出展プロジェクト、国内および東南アジアをフィールドにするワークキャンプのコーディネーター等の多岐にわたる活動に従事。2008 年より名古屋港区エリアの港まちづくり協議会事務局次長にて現場マネジメントに従事。2022 年より、大学教員としての新境地に挑んでいる。人と社会とその関係に関心がある。

尹さんと古橋さんには、12月のモヤモヤ会の振り返りや、選書に関するおしゃべりをしていただきました。3月のセッションにお申し込みの方には、その動画を限定配信します。